

「群馬県支部会報」

発行
平成30年7月27日
公益社団法人 日本技術士会
群馬支部 広報委員会

ごあいさつ#

支部長メッセージ

会報第11号の発行にあたり

公益社団法人 日本技術士会
群馬県支部 支部長
眞下 寛治（機械部門）



会報第11号の発行にあたり、ご挨拶申し上げます。

異常気象による豪雨が西日本を襲い、甚大な被害をもたらしました。このような豪雨は全国どこで起きてもおかしくありません。

日銀が7月2日に発表した短観では、業況判断指数は全規模全産業でプラス16です。製造業を中心に企業の業況感の回復ペースが鈍化しています。

群馬経済研究所の6月のぐまの経済概況では、群馬県内の景気は穏やかに回復しつつあるものの、一部に弱い動きがある、となっています。建設投資では、4月の住宅投資が3カ月連続で前年度比減少、企業設備投資は6カ月連続で前年度比減少しています。

クライベイト・アナリティクスが特許データベース等を使用して選定している、「トップ100グローバル・イノベーター」では、2017年は、世界で最も革新的な企業・機関100社中、日本企業の選出数は39社で、2016年の34社から増加しています。

また、トムソン・ロイターが世界テクノロジー企業上位100社を今年初めて発表し、日本は13社が入っており、アメリカの次です。世界テクノロジー企業は、財務、イノベーションなどの8つの分野の指標から選出しています。

このように日本企業は、イノベーションの創出と効果的なビジネス展開で、世界の技術革新を牽引しています。

日本技術士の最近の動きとして、技術制度改革についての提言の中間報告その2が報告されています。「更新制度の導入」については、更新対象者は技術士登録者全員とすること、更新期間は5年に1回とすること、更新講習の未受講者は、技術士の名称使用不可とすること、CPD 50時間以上は更新講習受講免除とすること、などが提言されています。

日本は資源がない国ですから、技術開発をしてゆかなければなりません。国も中小企業の支援に力を入れております。

技術士として益々活躍する場が増えていると思います。いっしょに頑張っていきましょう。今後の群馬県支部の活動に皆様方からのご指導、ご鞭撻の程宜しくお願い致します。

第7回全体会合

■日時:平成30年7月20日(金) 午後13:30~14:15

■場所:群馬産業技術センター 第1研修室

■次第: 1 支部長挨拶

2 議事

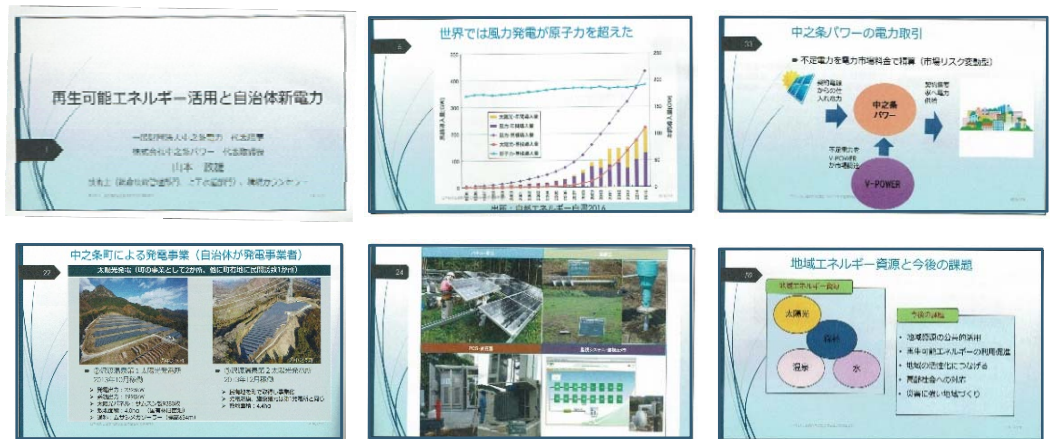
- (1)平成29年度事業報告について
- (2)平成29年度収支報告について
- (3)平成30年度事業計画について
- (4)平成30年度予算について

※議事内容は、特に異議なく報告されました。



『「再生可能エネルギーの活用と自治体新電力について」』

山本 政雄 (上下水道／総合技術監理部門)
 一般財団法人中之条電力 理事
 株式会社中之条パワー 代表取締役



株)中之条パワーの活動は、先進事例として全国的に注目されていることから、ご講演や見学の依頼が多くなっています。

今回の出席者の方々は、大変興味を持たれて聴講していたのではないのでしょうか。

ご講演では、最初に再生可能エネルギーの制度や事業面や自治体の新電力について、ご説明をいただきました。

実際の実務に基づいたお話は、大変説得力があり、再生可能エネルギーを地域で利用することによって、地域の活性化や暮らし等に役立つことがわかりました。

最後に、今後の展望として「木質バイオマス」や「小水力発電」についても言及されました。

山本様は、当会の一員ですので、今後、より一層のご活躍を期待したいと思います。(広報)



編集後記

夏目漱石が行った講演会の中で「道楽と職業」があります。明治期に職業が分化したことによって、人間の力が衰えるのではいか？ということのようです。より昔にさかのぼると、着るモノや食べモノは、自分でどうにかしていました。しかし、職業がより専門になると、時間や根気を費やしがちになるため、しだいに周りが見えなくなります。

さて科学者は…？ 科学者は、文学者や芸術者と同様に「道楽者」です。道楽者といっても、決して楽しんでいるとか、さぼっているという意味ではありません。道楽とは、自分の為にすること。それが、他人の為になり、報酬になると語っています。私は、当会の皆様とお会いすることで、より道楽者になりたいと思います。(広報 小池)

群馬県支部会報 第11号

公益社団法人 日本技術士会

広報委員会 委員長 二川真士 (機械／総合技術監理)
おおよ さとし
 委員 大谷 恵 (機械)
 委員 小池広明 (建設／総合技術監理)